

6 2 7 号
東部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
2021. 8. 10
富山県西部家畜保健衛生所

| | |
|--|--|
| 令和3年度畜産環境保全強化月間巡回... 1 | 飼料穀物価格高騰及びおが粉の価格上昇に 対応するために 4 |
| 畜産環境保全強化月間巡回(牛、鶏)を 実施しました(東部管内) 2 | 検査室レポート 5 |
| 家畜の中毒にご注意を! 2 | 防疫情報 6 |
| 豚熱ワクチン接種における豚熱患畜確認 に伴う今後の発生予防対策(提言) 3 | 新規採用職員の紹介 6 |
| 神奈川県でのワクチン接種農場で豚熱発生... 3 | お知らせ 6 |

令和3年度畜産環境保全強化月間巡回



堆肥管理施設の調査

東部家保管内では、今年度も畜産環境保全強化月間を設けて、市町村や広域普及指導センターとともに、家畜排せつ物の管理状況等を確認するために農家巡回を行っています。この巡回の主な目的は、家畜排せつ物の適正管理を促し、不適切な処理による水質汚濁や悪臭といった環境問題の発生を未然に防ぐことです。養牛・養鶏農家の巡回は6月～7月に終了し、9月からは養豚農家を巡回する予定です。また、浄化施設を設置している農場においては、水質検査も併せて実施します。

畜産農家の皆様には、お忙しいところ対応して頂くこととなりますが、今後とも適正な家畜排せつ物の管理に努めて頂き、畜産環境保全の取り組みにご協力をよろしくお願いいたします。

なお、西部家保管内の巡回は、10月～11月に実施する予定です。

(東部家保環境課 米澤主任)

畜産環境保全強化月間巡回(牛、鶏)を実施しました(東部管内)

家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律では、一定規模(牛10頭、豚100頭、鶏2,000羽)以上の家畜を飼養する農場を対象に、管理施設の構造設備に関する基準や管理の方法に関する基準などの「管理基準」を遵守することを求めています。特に家畜排せつ物の年間発生量、処理の方法及び処理方法別の数量については毎年記録・保管する必要があります。

今年度の巡回では、畜産公害の一つである水質汚濁の未然防止の観点から、堆肥舎と周辺の水路との位置関係についても調査させて頂きました。その結果、多くの農場で堆肥舎周辺に水路が流れていました。梅雨時期や台風、異常気象に伴う大雨の発生時に、家畜排せつ物の適正な管理をしていない場合、雨水が交じり合い水路を通して河川へ流出する可能性がありますので、特に注意をお願いします。

今年度の養牛・養鶏農家の巡回では、以下の点で指導をさせていただきました。

今年1月の大雪等により、堆肥舎の破損がみられる農場へは、遅滞なく修繕すること。

堆肥舎に搬入しきれない堆肥が一時的に堆肥盤上にそのまま置かれている農場へは、早急に草地等へ散布するか、防水シートで流出防止対策を行うこと。

記録簿の記入・保管に不備のある農場へは、巡回時に記入を促し、来年度の巡回時まで保管すること。

家畜排せつ物は適切な処理を行うことにより、堆肥としての有用性が期待できる一方、不適切な保管・処理を行った場合には畜産公害に繋がる可能性があります。家畜排せつ物の処理・利用方法については、自己の草地や田への散布、共同堆肥舎への搬出、袋詰め販売等、いろいろな方法がありますが、飼養規模や堆肥舎の大きさに見合った最適な方法での取り組みをお願いします。

(東部家保環境課 米澤主任)



肉牛農家の環境巡回

家畜の中毒にご注意を！

家畜の中毒は、主にカビ毒、有毒植物、農薬、重金属などの有毒物質を飼料や水とともに家畜が摂取したときに、急死、出血、起立不能等の急性症状、あるいは、食欲不振、繁殖障害等の慢性的な症状がみられます。

購入飼料に関しては、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律によりカビ毒、農薬、重金属の検査が行われ、一定の安全性が確保されています。このため農場での保管方法が非常に重要となります。一方、自給飼料については、その品質や有毒植物の混入などに注意が必要です。例えばサイレージの密閉性が悪く、有害な細菌やカビが増殖したものでは、給与した牛群が体調不良に陥ることがあります。この時、カビ毒より、有害な細菌や細菌が産生した毒素が原因であることが多く、その飼料給与を止めると徐々に回復していくといった特徴があります。有毒植物による中毒としてはキョウチクトウ、ユズリハ、ワラビ、オナモミ、ドングリ等によるものが挙げられます。畔草を刈り取って肉牛に給与したところ、周辺に生育していたキョウチクトウの落葉が混入していたために中毒を起こし、複数の牛が死亡したという報告もあります。

飼料価格の上昇が続く、自給飼料の重要性が増していますが、品質や有毒植物の混入等に注意しながら有効に活用していただきたいと思っております。(令和3年度家畜衛生講習会「基本講習会」より)



キョウチクトウ(夾竹桃)

東北地方南部以南の日本全国に分布する常緑樹で、庭木や街路樹に用いられている。植物全体に心臓毒性を有するオレアンドリンが含まれており、牛や山羊などの草食動物はごく少量が飼料に混入した場合でも死亡に至る。

(出典：家畜疾病図鑑)

(東部家保環境課 竹内主任)

豚熱ワクチン接種における豚熱患畜確認に伴う今後の発生予防対策(提言)

令和3年7月7日第15回拡大豚熱疫学調査チーム検討会が開催され、タイトルにある提言がなされました。検討会の概要及び提言は農林水産省のホームページで以下のアドレスに記載されています。

(<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/domestic.html>)

この提言にある対策に留意し、今後とも適正な飼養衛生管理をお願いします。

なお、提言でも触れられているとおり、豚熱ワクチンを接種してもすべての豚が免疫を獲得できるわけではありません。養豚農家の皆様には、ワクチンを過信せず、特に以下の3点に気を配りながら飼養衛生管理と早期通報の徹底に取り組むようお願いします。

1. 提言「ワクチン接種農場における免疫を獲得していない豚群への対応」

ワクチン未接種豚群を飼養する離乳豚舎等の衛生管理の重要性については、これまで拡大豚熱疫学調査チームより繰り返し提言がなされています。しかしながら、今回検討した国内62~68例目の発生事例でも、長靴・作業着の交換や手指消毒、豚の移動時のケージの消毒の不徹底例が確認されていることから、離乳豚舎の飼養衛生管理の徹底を改めてお願いします。

2. 提言「適切なワクチン接種について」

疫学調査において、接種豚群にもかかわらずELISA陽性率が低い事例が確認されました。ワクチンを有効に機能させるためには、適切な接種が必要であり、豚熱ワクチン接種についてご不明なことがありましたら家畜保健衛生所に問い合わせてください。

3. 提言「野生いのししの陽性確認を踏まえた農場侵入リスクの認識について」

発生農場の疫学調査では、農場の数キロ圏内で陽性いのししが確認されているものの、農場側の防疫意識が必ずしも十分でない事例が確認されています。陽性いのししそのものではなく野生動物等を介してウイルスが侵入した可能性が指摘されていることから、周辺環境中に存在するウイルスの畜舎への侵入リスクが高いことを認識し、衛生管理区域及び各豚舎における衛生管理の徹底をお願いします。

(東部家保防疫課 稲垣課長)

神奈川県のパクチン接種農場で豚熱発生

7月8日、神奈川県相模原市のワクチン接種農場で、国内69例目となる豚熱が発生しました。当該農場の疫学関連農場1戸(同市)の飼養豚及び疫学関連施設である横浜市のと畜場の出荷豚についても防疫措置の対象となり、合わせて4,109頭(精査中)が殺処分されました。死体は埋却ではなく農場隣接の田畑に設置された移動式レンダリング装置により処理され、同月21日にすべての防疫措置が完了しました。(関連記事6ページ)

拡大豚熱疫学調査チームの現地調査によると、当該農場は、平野部に位置する肥育専門農場で、周辺には田畑や民家が存在し、さらに今年に入り、農場から約10kmの地点で野生いのししの感染が確認されていました。また、豚熱ワクチンの初回接種は令和元年12月に実施されており、その後導入元でワクチンが接種されていましたが、接種日齢の変更に伴い、令和2年8月より導入後に当該農場において実施していました。本年6月中旬、導入した離乳豚群で下痢や数頭の死亡が確認され、7月7日に家保が立入ったところ、異状が継続していたため病性鑑定を行った結果、患畜であることが判明しました。

《疫学調査チームによる現地調査で指摘された主な事項》

各豚舎への立入り時に踏み込み消毒は実施されていたが、豚舎長靴の交換はしていなかった。

豚の移動の際は豚舎間を歩かせていたが、通路の消毒は未実施であった。

給餌車が離乳豚舎に出入りする際、洗浄・消毒は未実施であった。

各豚舎や堆肥舎の防鳥ネット及び壁面などに破損が見られた。

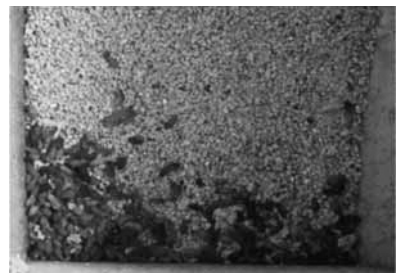
豚舎内ではネズミが多数確認され、畜舎通路や飼槽内でネズミの糞が確認された。



豚舎間の豚移動時に通路未消毒



防鳥ネットの破損と鳩の侵入



豚舎飼槽内のネズミの糞

(出典：農水省ホームページ)

写真は神奈川県の発生農場(69例目)のものとは限りません。
(東部家保環境課 稲垣課長)

飼料穀物価格高騰及びおが粉の価格上昇に対応するために

(1) 飼料穀物価格の高騰

飼料穀物情勢を巡っては、昨年来、中国の豚飼養頭数が増加に転じていることなどを背景に、とうもろこし及び大豆油かすの国際価格が高騰している状況にあります。このため、国内の配合飼料価格が大きく上昇し、令和2年度第4四半期には、配合飼料価格安定制度による通常補填が発動しています。今後も飼料穀物の需給はひっ迫基調で推移することが見込まれることから、農家の皆様におかれましては、以下のことに留意し、可能な限り飼料費を低減しましょう。

- ・朝晩の涼しい時間帯に1日数回に少量ずつ分けて給餌し、飼料の食べこぼしが減るよう努める。
- ・乳用牛については、青刈りとうもろこしなどの良質な粗飼料の給与により穀物の給餌量を低減させる。
- ・肉用牛については、個体毎の増体の状況に応じて、肥育期間の短縮に努める。
- ・雌畜の適切な繁殖管理を徹底し、分娩間隔の適正化に努める。
- ・アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理を行い、乳房炎などの疾病予防や家畜の死亡率低減等を図り、畜産物の生産性の向上に努める。
- ・比較的安価な食品残さ等を活用したエコフィードを利用する。
- ・とうもろこしと比べて価格面でメリットのある原料（飼料用麦、飼料用米等）の比率を高めた配合飼料を利用する。
- ・飼料の適切な保管に努め、損耗を防止する。
- ・フィーダーの破損等がないかこまめに確認するなど、設備の管理を徹底する。

(2) おが粉の価格上昇等

北米における住宅着工戸数の増加、中国の木材需要増大、世界的なコンテナ不足による輸送コストの増大等の影響により、輸入木材の確保について不安感が広がり価格が上昇しています。また、輸入木材の代替として、国産材製品の引き合いも強くなっており、全体として木材製品価格が上昇するなどの状況も生じています。

その影響もあり、家畜の敷料等として利用するおが粉の価格が上昇するとともに、入手が困難になりつつあるとの声が畜産関係者から国へ寄せられています。

このことから国は、農水省ホームページ（下記 URL）に公益社団法人中央畜産会が作成した「おが粉の代替となる敷料の事例集」及び「おが粉代替敷料利活用マニュアル」を掲載し、対策案を情報提供していますので、参考にしてください。

農水省ホームページ掲載先

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kankyo/taisaku/t_info/ogako.html

《例：もみ殻》（「おが粉代替敷料利活用マニュアル」より抜粋）

特徴

もみ殻は全国で発生することから入手が容易ですが、おが粉と違いその形質は硬く、水をはじく性質をもっています。また、もみ殻の吸水率は75-80%ですが、粉碎することで136-250%まで上昇します。（参考：のこくずの吸水率は280-450% 堆肥化施設設計マニュアル 1987 中畜より引用）

敷料としての利用時のポイント

もみ殻の保水性の低さは、逆を言えば通水性の良さと言えます。尿が敷料を透過することで、牛体が濡れずに蒸発熱を防ぐことにつながります。もみ殻を厚く敷くことで通気性・クッション性も高まります。もみ殻を雨水に濡れたまま長期保管するとカビが発生するので、閉鎖型の施設で保管することが望ましいでしょう。

副資材として利用時のポイント

家畜糞の好気性発酵のためにもみ殻を混合して空間を生み出すことは有効ですが、もみ殻は腐熟しにくい特性をもっています。もみ殻は炭素の割合が高く、窒素の割合が低いので、もみ殻を混合した堆肥は、物理性の改良効果は大きくなるものの、未熟な堆肥を施用すると、圃場で堆肥の分解が進み、窒素不足を引き起こすことがあります。こうしたことから、施用する目的によって堆肥の種類を選ぶ必要があります。

（東部家保環境課 稲畑課長）

検査室レポート

【検査実施状況】

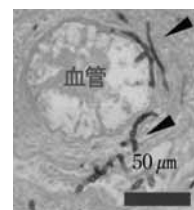
(令和3年3月1日～令和3年7月25日現在)

| 区分 | 畜種 | 診断名・検査名 | 件数 | 頭羽数 | 検体数 |
|------------|-------------------|--|-------|-------|-------|
| 病性鑑定 | 乳用牛 | 牛コクシジウム病 | 3 | 3 | 3 |
| | | 牛ロタウイルス病 | 2 | 7 | 11 |
| | | 牛コロナウイルス病 | 2 | 7 | 7 |
| | | 牛トロウイルス病 | 1 | 1 | 1 |
| | | 牛マンヘミア症 | 1 | 1 | 1 |
| | | 牛クロストリジウム・パーフリゲンズ感染症 | 1 | 1 | 2 |
| | | 牛パスツレラ症、ヒストフィルス・ソムニ感染症、牛マイコプラズマ肺炎及び創傷性第二胃炎 | 1 | 1 | 1 |
| | | 壊死性腸炎 | 1 | 1 | 1 |
| | | 壊死性回腸炎 | 1 | 1 | 1 |
| | | 牛大腸菌症 | 1 | 1 | 1 |
| | | 後大静脈血栓症 | 1 | 1 | 1 |
| | | 細菌性乳房炎もしくは真菌性乳房炎 | 41 | 173 | 316 |
| | | その他 | 125 | 140 | 151 |
| | 肉用牛 | 牛パスツレラ症 | 5 | 16 | 16 |
| | | 脂肪壊死症 | 2 | 2 | 2 |
| | | 牛コクシジウム病 | 2 | 2 | 2 |
| | | 牛ロタウイルス病 | 1 | 2 | 2 |
| | | 牛コロナウイルス病 | 1 | 1 | 1 |
| | | 牛パラインフルエンザ | 1 | 1 | 1 |
| | | 真菌性第四胃炎 | 1 | 1 | 1 |
| 肺の多発性肉芽腫 | | 1 | 1 | 1 | |
| その他 | | 50 | 70 | 70 | |
| 豚 | 豚繁殖・呼吸障害症候群 | 1 | 3 | 3 | |
| | 豚トウルエベレラ・ピオゲネス感染症 | 1 | 1 | 1 | |
| | 化膿性腹膜炎 | 1 | 1 | 1 | |
| | その他 | 4 | 12 | 12 | |
| 鶏 | 鶏の豚丹毒菌感染症 | 3 | 8 | 8 | |
| | 鶏コクシジウム病 | 3 | 5 | 5 | |
| | 鶏大腸菌症 | 1 | 5 | 5 | |
| | その他 | 2 | 10 | 29 | |
| 緬・山羊 | 山羊コクシジウム病 | 4 | 5 | 7 | |
| | 消化管内線虫症 | 3 | 3 | 3 | |
| | 細菌性乳房炎 | 6 | 10 | 13 | |
| | その他 | 8 | 12 | 12 | |
| 馬 | 血液生化学検査 | 2 | 2 | 2 | |
| 一般検査 | 牛・豚・鶏・山羊 | 221 | 1,745 | 1,973 | |
| 鳥インフルエンザ検査 | 鶏 | 30 | 300 | 600 | |
| BSE検査 | 牛 | 18 | 18 | 18 | |
| TSE検査 | 緬・山羊 | ウエスタンプロットまたは免疫組織学的検査 (農研機構 動物衛生研究部門に依頼) | 4 | 4 | 4 |
| 豚熱検査 | 野生いのしし | PCR検査 | 16 | 78 | 78 |
| 合計 | | | 573 | 2,656 | 3,367 |

【トピックス】牛の真菌性胃腸炎（接合菌症）

真菌性胃腸炎は胃腸炎のうち真菌を原因とするもので、*Rhizomucor* 属菌などの接合菌が原因となった場合、接合菌症と診断します。牛の消化管粘膜に病変がみられ、出血を伴った潰瘍を形成します。本病の症状は食欲不振ですが、経過が急性なため、生前診断が困難な疾病です。

接合菌は、土壌、穀類、汚水、腐敗した牧草及び堆肥などに生息、中温から高温（20～50℃付近）で湿度の高い環境を好み、牛の呼吸器や消化器を介し感染します。日和見的に発症するため、頻繁に遭遇する疾病ではありませんが、飼料や敷料にカビが生えないよう適切な保管に努めてください。



接合菌（黒矢印）

(東部家保検査課 岡部係長)

防疫情報

全国の主な家畜伝染病の発生 豚熱 (CSF) (法定伝染病)

(8月6日現在)

| 事例 | 発生日 | 発生場所 | 経営形態 | 飼養頭数 | 備考 |
|----|-------|----------|-------|---------|--------------------------|
| 69 | 7月8日 | 神奈川県相模原市 | 豚肥育農場 | 3,939頭 | ワクチン接種地域であるため、制限区域は設定しない |
| | 関連農場 | 同上 | 同上 | 145頭 | |
| | 関連と畜場 | 神奈川県横浜市 | と畜場 | 25頭 | |
| 70 | 8月4日 | 山梨県道志村 | 繁殖農場 | 約1,700頭 | ワクチン接種地域であるため、制限区域は設定しない |

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

| 病名 | 畜種 | 発生日 | 戸数 | 頭羽数 | 備考 |
|----------------------|----|-------|----|-----|----|
| 牛ロタウイルス病 | 牛 | 6月29日 | 1 | 1 | |
| 牛トロウイルス病 | 牛 | 6月29日 | 1 | 1 | |
| 牛パストツレラ症 | 牛 | 7月5日 | 1 | 2 | |
| 牛コクシジウム病 | 牛 | 7月6日 | 1 | 1 | |
| | | 7月15日 | 1 | 1 | |
| 牛ロタウイルス病 | 牛 | 7月7日 | 1 | 5 | |
| 山羊の消化管内線虫症およびコクシジウム病 | 山羊 | 7月9日 | 1 | 2 | |
| 牛コクシジウム病 | 牛 | 7月15日 | 1 | 1 | |
| 鶏コクシジウム病 | 鶏 | 7月20日 | 1 | 1 | |

☆ 新規採用職員の紹介 ☆

《宮澤 馨 (みやざわ かおる)》 東部家畜保健衛生所 防疫課獣医師
 出身地 岐阜県
 出身校 鳥取大学 (生理学教室)
 趣味 ドライブ 音楽鑑賞



6月に(独法)家畜改良センターを退職し、7月から東部家畜保健衛生所にて勤務することになりました。微力ながら富山県の家畜防疫に貢献していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

☆ お知らせ ☆

| 催事等 | 期日 | 場所 |
|------------|-------|----------------|
| 北陸三県和牛子牛市場 | 8月26日 | 北陸三県家畜市場 (金沢市) |

編集後記

数えきれないほどの困難と混乱を経て、史上初の1年延期となった東京五輪が7月23日に開幕しました。開会式の平均世帯視聴率は令和のテレビ番組最高の56.4%を記録したそうです。五輪開催に否定的だった各紙もテレビ局も連日、紙面や中継で盛大に報じていました。「コロナ禍で開催意義が問われる中、(中略)自分たちにできることはベストを尽くすこと。」日本選手団の山縣亮太主将が結団式で決意表明したこの言葉を体現するように、競技にすべてを懸け、躍動する選手たちは私たちに感動と様々な示唆を与えてくれたのではないのでしょうか。



発行所 富山県東部家畜保健衛生所 http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
 〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話 (076) 479-1106 FAX (076) 479-1140
 編集者 稲畑 裕子 (富山県東部家畜保健衛生所)